



ガキ大将Kくん Part 2、続編です。

ガキ大将のKくん Part 2

Kくんのその珍妙な行動の真相を知ったのは、それからだいぶ後になってからのことです。

上京し、学生生活を送っている私のもとに、郷里で就職したNちゃんから久しぶりに電話がありました。

「Kくんが私にバケツの水を浴びせたことがあったでしょう？」

話題が何気なくKくんのことに移った時のことです。

「私に勇気がなくて当時どうしてもみんなには言えなかったんだけど、実はあの時、私、本当はおもらしをしてたんだ。」

Nちゃんは突然こんなふうに取り出しました。

「ズボンからシタシタとおしっこがたれてきて、シューズのまわりの床はびしょ濡れ、泣きべそ顔で立ち尽くす私に、Kくんが気づいてくれたのよ。」

学校だより前号を読んだ1年生のKくん、Tくん、Hくん、Yくん、MYくん、MSくんの6名が12月4日（月）に校長室を訪ねてくれました。みんな校長室に入るなり、「校長室きれい！」「いい匂いがする！」「ちょっと緊張する！」とそれぞれ校長室の感想から始まり、校長先生による道徳プチ授業の始まりです。

MYくんが「ガキ大将Kくん」のお話を「書籍（歴史の本？）で読んだことがあって結末まで知っていました。」とのこと。ガキ大将のKくんのお話についてその結末（上記Part2）をMYくんに話してもらった後、一人一人に次のように聞いてみました。

私：「おもらしをしてしまったNちゃんを見て、みんなだったらどうする？」

Kくん：「そっと声をかけてみんなから見えないところに連れていく。」

Tくん：「その状況を目の当たりにしたら動けないかも。」

Hくん：「周囲を確認してその状況に気づいている人がいたら協力して何とかする。」

Yくん：「さすがにバケツの水はできないけど、水筒をわざと倒す。」

MYくん：「Nちゃんとしやべらないような関係だったら（あまり親しくなければ）動けないかも。」

MSくん：「ガキ大将のKくんみたいにはできないけど、自分が何かをしてみんなの注意を自分に向ける。」

それぞれが自身の考えを私に語ってくれました。答えなんかなかったっていいんです。そもそも道徳には答えなんなくて、ある事象に対して自分がどう感じるか、考えるか、他者の考えはどうなのか、そしてその事象から何を学んだのか、それぞれにそれぞれの学びがあればいい。「動けないかも。」と答えた生徒は、中学1年生の率直な意見なのかもしれません。であるならば、周囲の仲間の考えや行動から自分がどうすればいいのかをこれから学んでいけばいい。「声をかける…」、「協力して…」、「水筒を倒す…」、「注意を自分に向ける…」と答えた生徒たちは、実際に困っている人がいたら、本当にそのように行動ができる決断力と行動力をこれから身につけていけばいい。私はそのように考えています。

校長室を訪ねてくれた6名の生徒たちに共通していたことはただ一つ。『Nちゃんのおもらしが「いじめ」に発展するようなことだけは絶対にあってはならないこと』という意見。

木更津第二中学校がまた「変わる」、私がそう確信した校長先生によるプチ授業となりました。